

釣れ釣れなるままに

2005年思い出の釣行記 PART. 1

隣に来た大物



鹿島釣狂

岩見沢釣遊会第1回大会

- ☆開催日 平成17年4月24日
- ☆開催場所 豊浜港～栄浜港
- ☆入釣場所 大平トンネル裏 (ワスリ)

| | | | |
|------|------|--------|------|
| ☆潮 | 満潮 | 04:02 | 14cm |
| | 干潮 | 09:45 | 3cm |
| ☆釣 果 | ホッケ | 370 mm | 2/7 |
| | アブラコ | 347 mm | 2/5 |
| | マゾイ | 335 mm | 1/1 |
| | ハチガラ | 230 mm | 1 |
| | カジカ | mm | 1 |
| | 重量 | 2920 g | |
| ☆成績 | 合計点数 | 1009 点 | |
| | 成績 | 3 位 | |

釣り場に思いを馳せて

少ない釣行をカバーするために、私は釣り場に思いを馳せることから始めているが、これが結構楽しい。自分には乏しい釣行記録しかないので、資料は貴誌「北海道のつり」が中心になる。時期に合わせて、何年か前のものにも遡って手にするのだが、近年、気候や道路状況等が大きく変化し、その対応に辟易することも度々である。

この(豊浜港～栄浜港) 区間での私の成績は豊浜大岩場が比較的安定し無難なところだ。隣の大平川河口も浦島太郎1号氏のお誘いに乗ってみたい気もする。それに続く鷹の巣トンネル裏はボンズと爆釣を経験しているが、入釣したいと願っている一番大きく突き出た盤にはいまだに乗ることができていない。波が高い時や先行者がいればその左右に張り出す平盤も有望である。床丹サラシ大平盤の中央から右に釣り場を探して歩くのもよいだろう。

五十嵐明氏が貴誌で紹介していた北国潤左先端にも挑戦してみたい。しかし、五十嵐氏の釣りは私のような未熟者の釣りとは次元の違うものだと聞いている。蒲原大平盤、穴潤平盤にも一度ずつの入釣経験があるものの大物には縁がなかった。釣遊会のメンバーがよく入る狩場海岸も魅力的で、一度は下りてみたいところだ。

釣り場に対応して、仕掛けやエサについても際限なくイメージは膨らむが、大釣りしてガッツポーズ繰り返している光景と項垂れて釣り場を後にしている光景が折り重なるように浮かんでは消えていく。

他会との交流

大会日2週間前に行われた札幌交縁会の大会優勝者に釣遊会仲間の「吉井 博」とある。2魚種身長+10匹重量での成績で1900点台を出してのブッチギリであった。新年度総会の折、会員の減少を克服するために我が釣遊会に何度か取材いただいていた岩本満氏のお世話で交縁会との交流を持つことになったのである。早速、釣遊会から5名(吉井、嵐、秦野、大前、前野)が参加したのだった。

吉井氏は熊石町相沼に入っでの成績で身長賞を獲得した50cmのアブラコを頭に爆釣したとのことである。他の会員も何某かの成績を取めたというから心強い。しかし、参加させていただいているという身を弁^{わきま}えてほしいものだとも思う。

接待麻雀で、客を差し置いて招待者側があがってばかりいるのも考えものだが、招待者側の気持ちを考えず、接待に甘んじているのもいただけないものがある。「持ちつ持たれつ」という程よい関係を築いておくべきであろう。

今回の大会にはお返しとばかり3名（交縁会 岩本満 小野田正男 村西省三）の方々に参加いただいた。これが「持ちつ持たれつの関係」であろう。さらに、釣りの交流が深まるのは大変よいことである。「井の中の蛙」では、個人の釣技もさることながら会としての発展も覚束ないであろう。それぞれの会の運営方法や釣技を学び合うことで、お互いが高まり合い、これこそが「持ちつ持たれつの関係」に繋がっていくことになると思う。

何度か臨時で乗っていただいている安曾、吉田氏、さらに、事務局長の友人河原氏にも参加いただいた。合わせて6名の臨時会員を乗せ、バスの中は心なしか華やかでおり、颯爽と目的地に向かって出発した。岩内に向かう稲穂峠ではフロントガラスのワイパーがしきりに回っていたが、予報では、「明け方には天気は回復し、波も治まってくる」と告げており問題はないだろう。

案の定、寿都を過ぎて豊浜漁港で身支度を整えるころになると、天上の星々も瞬き、赤い満月が煌々と闇夜を照らしており、キャップライトはエサ付けのために手を照らすぐらいで、移動するためには必要がないように思われる。

ワスリは忘れられない

事務局長が、豊浜から床丹までで降りる者がいないか確認しているが、誰も手を挙げない。鷹の巣トンネル裏（ワスリ）に向かう私が最初のような。嵐氏も私に続いて床丹で下りるとバスの出口に向かったがさらに先らしい。大平トンネルを抜けたところで「釣れなかったら床丹に戻るのでよろしく」と嵐氏に告げて、降ろしてもらおう。

ワスリ入釣は3度目となる。1度目は大荒れの海を横目に見ながら、ゴロタ場の海岸線をようやくの思いで、ワスリで一番の出岬に辿り着いた。そこで、竿等のセッティングが終わった時に波飛沫の洗礼を受けた上、底荒れのために根掛かりばかりを繰り返して、ボンズの憂き目を味わったのだ。2度目はべた凧の海況でリベンジを期して再挑戦し、1400点台を出して優勝の美酒を味わった。年々体力の衰えを感じている自分にとって、ワスリに向かう心意気があるのは今の内だと再々度の挑戦である。

腰程度の高さの平らな岩を探して、リュックを肩に掛けたまま置き、休み休み釣り場に向かう。ワスリの一等地の出岬の根元に一人の釣り人がいたが、平盤上は誰一人いない。しばらく立ちつくして波の様子を伺っていたが、波が平盤上を駆け上がることはない。しかし、無理をすべきではないだろう。2年前のことが脳裏に浮かび上がる。この時にもしばらく確認した後での入釣だったが、セッティングを終えた後で小用を足すために海に背を向

けてウエィダーをズリ下げた時、背後から盛り上がったウネリが盤の縁を叩き、頭上からの波飛沫の洗礼を受けたのだ。上着を脱ぎ、ウエィダーを下げていたためにずぶ濡れとなり、我が逸物の萎えと共に戦意を喪失してしまったのだ。

今回はそれよりさらに進んだ比較的高い盤の上に竿をセットする。そして、自分は波打ち際よりかなり下がって立った。

隣の竿に

ホッケ仕掛けを改良した。0.6号のステンレス線をZ字に折り曲げて天秤をつくり、ハリスも長めにしてふわふわと漂うようにし、ネットもイカゴロ針も付けたものだ。それに、早速、バタバタと竿を揺らすホッケのアタリが来たが、まだまだやせ細ったローソクボッケであった。すぐに近投で根回りを探っていた仕掛けに25cmほどのカジカが来て、婿と嫁ができた。小さいアタリが続く。エサのエビに食いついているようですぐになくなる。ホッケにはエビが一番なのだろう。

忘れていたことを思い出したようにウネリが岩盤上に上がり、足下をサラサラと流れていく。少し大きなウネリが来て、カツオの入ったエサバケツが流された。平盤上の低いところを伝って川のように流れる潮に乗って、カツオがふわふわと漂う。潮の流れの行き先は海が溝になって切り込んだところである。一つ一つあわてて拾い集める。海の水はさほど冷たくは感じない。

遠投の竿によいアタリがあり、竿を大きく煽ってから、途中の根に潜られないようにと懸命にリールを巻いていると、近投の竿尻がガクンと持ち上がった。竿先がよい突っ込みを見せ左の根のある方に向かっていくが、今、この手にしている竿を置くことができない。早く取り込んでしまおうとリールを巻いているうちに、ガクンガクンと大きなアタリを見せていた隣の竿先が曲がったまま止まってしまった。ようやくの思いで35cm程のアブラコを取り込み、左の竿に手を掛けるが、手前に張り出したサラシ根に道糸が絡まってしまった。魚は根の向こう側にある窪みに潜り込んだようである。サラシ根に渡って、沖に向かって竿を煽り、窪みから引っ張り出したいところだが、そのサラシ根には時折、波が乗り上げていた。危険は避けるべきだ。結局、大物の感触を竿に残しただけで、その大魚の姿を見ることは叶わなかった。

またまた近投の竿尻がガクンと持ち上がった。同じように遠投の竿を上げていたところで手が離せない。38cm程のホッケを取り込んだ後、何度目かのアタリに合わせて竿を煽るがやはり先程の岩穴に潜り込まれてしまったらしい。2度も同じ過ちを繰り返してしまう自分の未熟さ・不甲斐なさに嫌気がさしてしまう。

ソイは腹に収まるもの

明るくなってから、35cm程のデブプリとして腹もはち切れんばかりのマゾイがあがった。ハリスを外そうと体を握ると黄金の卵がハラハラとこぼれ落ちた。ソイは胎生と聞いて

いたが、この卵が全部孵ったらどんな腹になるのだろう。また、口の中で育てると言うから、孵化した稚魚が口から出入りする様子を思うと滑稽にさえ思えてくる。浦島太郎氏は産卵前の魚は全てリリースしているというが、キャッチ&審査&イートの私としてはプリプリと身の引き締まったおいしい刺身を口にしてしまうと罪悪感が消えてしまう。回遊してくる青ボッケではなく磯に居着いた赤みの増したホッケを釣ると煮付けを想像して涎が出てくるのである。

帰途は、大平川方向に歩いてみた。ゴロタ場を歩く床丹に向かうよりは多少距離はあるが、平盤が続いていたので歩きやすかった。なにより大平川までの海況を見ることが出来たのが今後の収穫となった。

審査結果

| | | | | |
|------|-------|--------|-----------------------------|-------|
| 優 勝 | 嵐 光博 | 1160点 | (カジカ 431mm+ホッケ 372mm+3570g) | 床丹 |
| 準優勝 | 小野田正男 | 1091点 | (アブラコ379mm+カジカ 376mm+3360g) | シマロッペ |
| 3 位 | 鹿島釣狂 | 1009点 | (ホッケ 370mm+アブラコ347mm+2920g) | ワスリ |
| 4 位 | 大前健治 | 1002点 | (アブラコ378mm+ホッケ 375mm+2490g) | アナマ |
| 5 位 | 吉井 博 | 992点 | (カジカ 385mm+ホッケ 367mm+2400g) | 小田西川 |
| 身長優勝 | 高橋昭吾 | 43.3cm | (カジカ) | |

審査後、岩本満氏から写真を撮るので魚を出せと言われた。入賞にはほど遠いと思っていたので何かの間違いではないか、ソイを釣ったからその写真を撮るのだろうかとおそるおそるホッケとソイを差し出すと、思いの外3位入賞であった。

帰りのバスの中では入賞の喜びに併せて、ソイの刺身とホッケの煮付けで1杯やっている姿を思い浮かべながら微睡んだ。